

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 台風第7号については最新の台風予報を参照。
- 30日から7月4日にかけて、高気圧は日本のはるか東に移動し、前線が本州から本州南岸付近にのびる。太平洋高気圧が日本の南に張り出す。

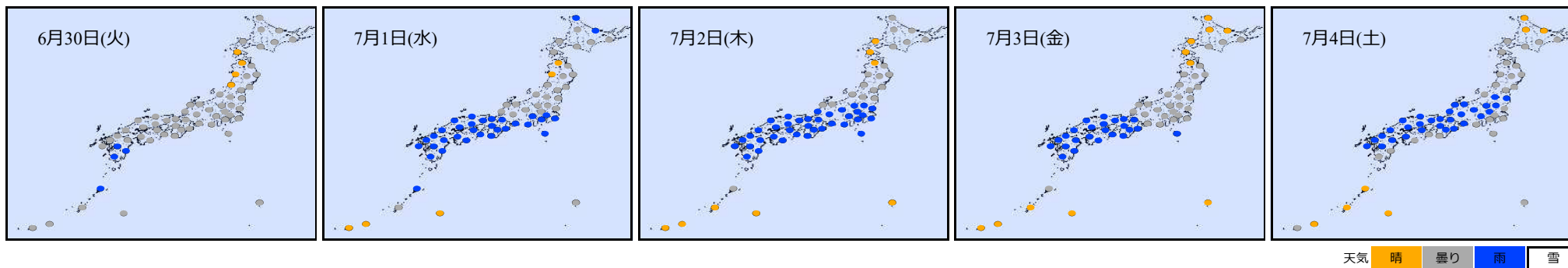
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 30日は、奄美地方では、前線の活動の程度によっては警報級の大雨となるおそれがある。
- 7月1日頃は、西日本では、前線の活動の程度によっては警報級の大雨となるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

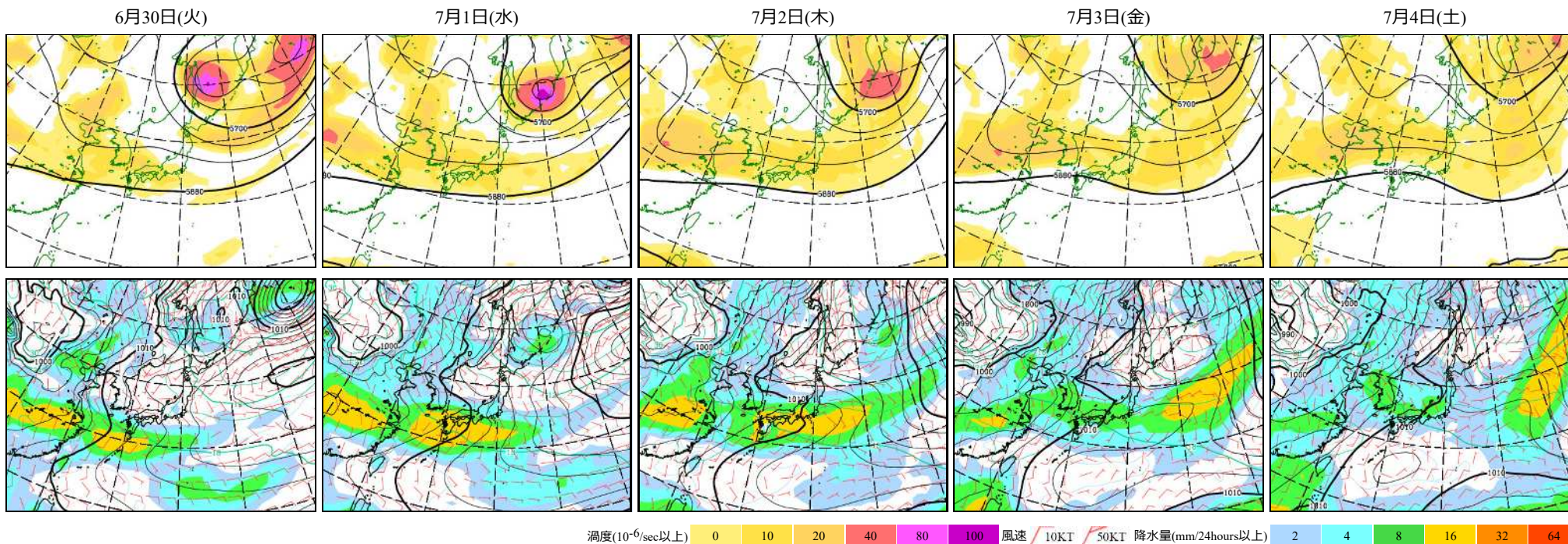
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

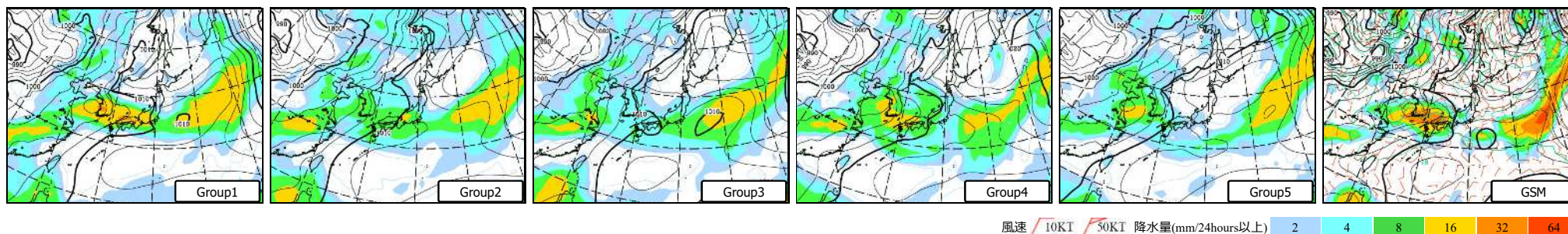


- 北日本は、曇りや晴れの日が多いが、7月1日は雨の降る所がある。
- 東日本と西日本と奄美地方は、曇りや雨の降る日が多い。
- 沖縄・奄美は、晴れの日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆7月3日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料 (ENS) は、30日から7月4日にかけてオホーツク海を進む寒冷渦が深まり、早まった。中国東北区から日本海北部に進むリッジが強まり早まった。地上は、30日から1日にかけてオホーツク海を進む低気圧が強まった。本州南岸付近にのびる前線の進みが早くなった。
- モデル間の差は全体的には小さいが、トラフの形や進みにばらつきが見られる。3日から4日にかけては、低気圧を黄海から日本海に進める。海外モデルはないか弱い。
- 3日から4日に、日本海に低気圧が進むメンバーが多いが、進まないメンバーもある。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。